





# 目次

喩えについて フランツ・カフカ .....	1
-----------------------	---



## 喩えについて フランツ・カフカ

賢者の言葉は、いつも喩えばかりで、日常生活では用をなさない。我々が抱えているのは、むしろそういう毎日であるのにと、多くの人々は不満を漏らす。「あなたへ赴け。」と、賢者が言ったとする。もちろん、あっちへ行けとか、そんなことではない。そんなことなら、いつでもやれる。そこへ行くだけの甲斐があるのならば。そうではなく、彼が言わんとしているのは、途方もない向こう、我々のあずかり知らぬ、彼にもそれ以上示せない、そして我々には無用の、何かなのである。そもそも、全てのこれらの喩えは、誰でもそんなことは分かっているが、理解を絶したものは、やはり理解を絶しているということを言わんとしている。だが、日々、我々が苦しんでいるのは、それとは別の次元の物事である。

これに対して、ある男が言った。「なぜ逆らう？ 喩えに従ってしまえばよい。そうすれば、あなた自身が喩えになって、日々の苦しみから解放される。」

もう片方の男が言った。「誓ってもいいが、それも一つの喩えだ。」

最初の男が言った。「分かった、君の勝ちだ。」

もう片方の男が言った。「残念だけど、喩えの中でだけ。」

最初の男が言った。「いや、現実の中では勝っていて、むしろ、喩えの中で負けている。」

---

嘘について フランツ・カフカ

---

著 bambus

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---